Hyogo Prefecture

空飛ぶクルマに関する兵庫県の取組

令和８年10月15日

兵庫県

空飛ぶクルマに関する兵庫県の取組

01 将来像

兵庫県が目指す将来の姿

- **空飛ぶクルマが日常的に利活用される地域の形成（目標１）**
  - ・目標１－１：空飛ぶクルマの商用運航（ビジネス化）実現・定着
  - ・目標１－２：地域課題解決に向けた活用
- **空飛ぶクルマ関連産業のエコシステムの形成（目標２）**
- **国の動向（参考）**
  - ・空の移動革命に向けたロードマップの改定
  - ・日本成長戦略、地域未来戦略及び戦略産業クラスター計画の策定

02 取組方針

目標実現に向けた取組

- **空飛ぶクルマ事業化準備事業**
- **次世代空モビリティひょうご会議の開催**
- **地域分科会の設置**

03 取組実績

これまでの取組

- 次世代空モビリティひょうご会議
- 機運醸成イベント
- HYOGO空飛ぶクルマ研究室
- 空飛ぶクルマ関連事業者と県内事業者等とのマッチング（R8産業メッセ）
- 尼崎フェニックスバーティポート
- 空飛ぶクルマ実装促進事業

01 兵庫県が目指す将来の姿

01 兵庫県が目指す将来の姿①

兵庫県が目指す将来の姿

目標１ 空飛ぶクルマが日常的に利活用される地域の形成

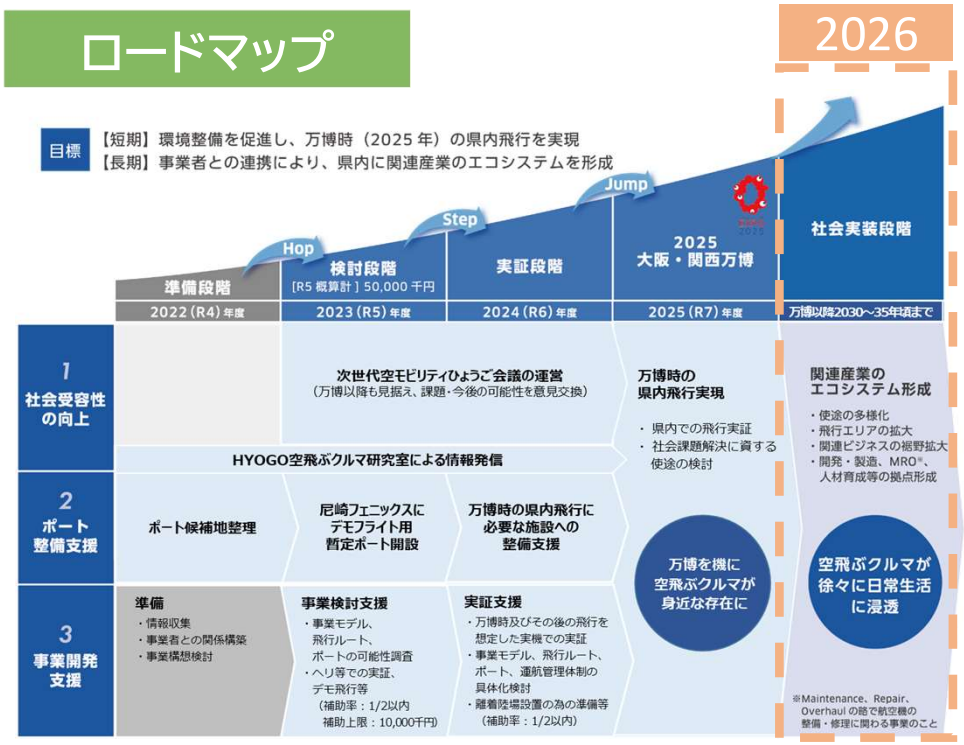
目標1-1　商用運航（ビジネス化）の実現・定着［主に観光分野を想定］
目標1-2　地域課題解決に向けた活用[防災・救急医療・地域交通等]

目標２ 空飛ぶクルマ関連産業のエコシステムの形成

➡目指す将来像に向け、段階を踏みながら着実に推進

実証～事業化準備	実装開始	定着
～2025年 実証事業 2026年事業化準備	ビジネス定着（観光分野から拡大）	日常生活に浸透 産業の裾野拡大

ロードマップ



実現に向けたステップ

STEP1 実証～事業化準備

～2025年 実証

2028年頃～ 実装開始

2026年 事業化準備

各地で事業化

STEP2 実装開始

日常生活に浸透（社会受容性の高まり）

空飛ぶクルマ ビジネス定着（主に観光を想定）
目標1-1

機体整備・部品供給等関連ビジネスの創出

STEP3 定着

バーティポートが各地で整備 機体技術の向上

人材育成

地域課題解決に向けた活用 [防災・医療・交通]
目標1-2

産業の裾野拡大 [エコシステム形成]
目標2

01 兵庫県が目指す将来の姿②

目標1　空飛ぶクルマが日常的に利活用される地域の形成

観光分野等での商用運航を実現させるとともに、災害対応や救急医療等、県民の安心・安全や生活向上のため多様なユースケースで日常的に空飛ぶクルマが利活用される地域を目指す

目標１-１：商用運航（ビジネス化）の実現・定着　［主に観光分野を想定］

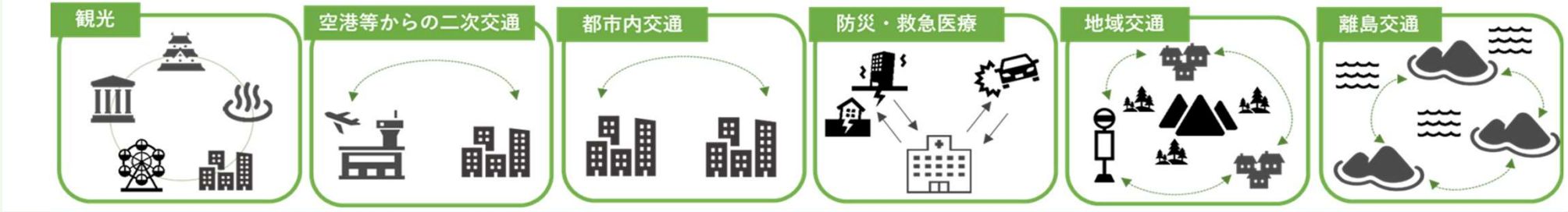
- 導入初期においては、早期に商用運航を開始し、実績を積み上げることが重要
- 実装事業等の取組により、観光分野を中心として社会実装に向けた事業者の取組は着実に進展
- ひょうご新観光戦略では、「高付加価値化」の実現を掲げており、空飛ぶクルマは活用可能性が高い

➡ **導入初期段階では**、収益性や社会受容性を確保しやすい**観光分野での商用運航の実現・定着**を目指す

目標１-２：地域課題解決に向けた活用　［防災・救急医療・地域交通等］

- 地震・豪雨をはじめ、自然災害が激甚化・頻発化しており、孤立集落等への迅速なアクセスや物資輸送手段の確保が重要
- 県内では、整備士不足を背景としたドクターヘリの運休が発生するなど、持続可能な救急医療体制の確保が求められる
- 人手不足問題やインフラの維持・管理など、地域が抱える様々な課題解決に次世代モビリティ等の活用が期待される

➡ **将来的には**、商用利用のみならず、空飛ぶクルマの技術を**地域に還元し、地域課題解決に活用**



01 兵庫県が目指す将来の姿③

目標2 空飛ぶクルマ関連産業のエコシステム形成

空飛ぶクルマの関連産業(機体整備や部品供給等)を県内産業へ波及させ、次世代産業の創出を目指す

エコシステムの形成

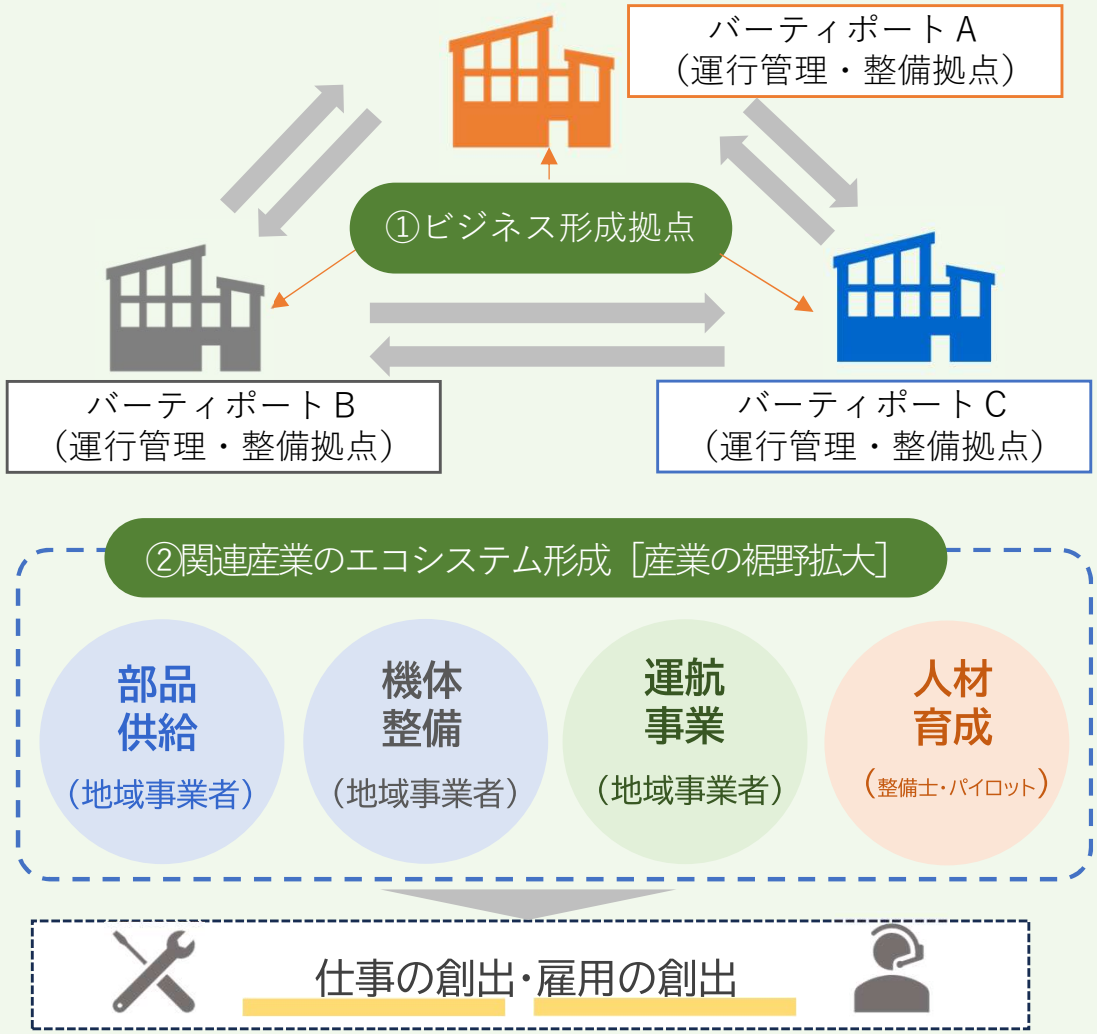
バーティポートの建設等をはじめとした運航インフラの整備を通じて、ビジネス拠点形成や、関連産業のエコシステム形成に取り組む

県内の観光地や空港などにおいて、バーティポート等の運航インフラを早期整備し、空飛ぶクルマの商用運航環境を構築し、**ビジネス拠点を形成**

- 自治体や地域団体と連携し、住民理解の促進や関係者との調整を進める
- 防災・医療分野での活用を見据えたマルチユースを検討

- 機体メーカーと県内事業者の連携促進、整備拠点の形成、人材育成を通じた空飛ぶクルマのサプライチェーン構築と関連する県内産業への裾野拡大を推進

県内事業者・地域への波及イメージ



【参考】国の動向①

国の動向①　「空の移動革命に向けたロードマップ」の改定（R8.3）

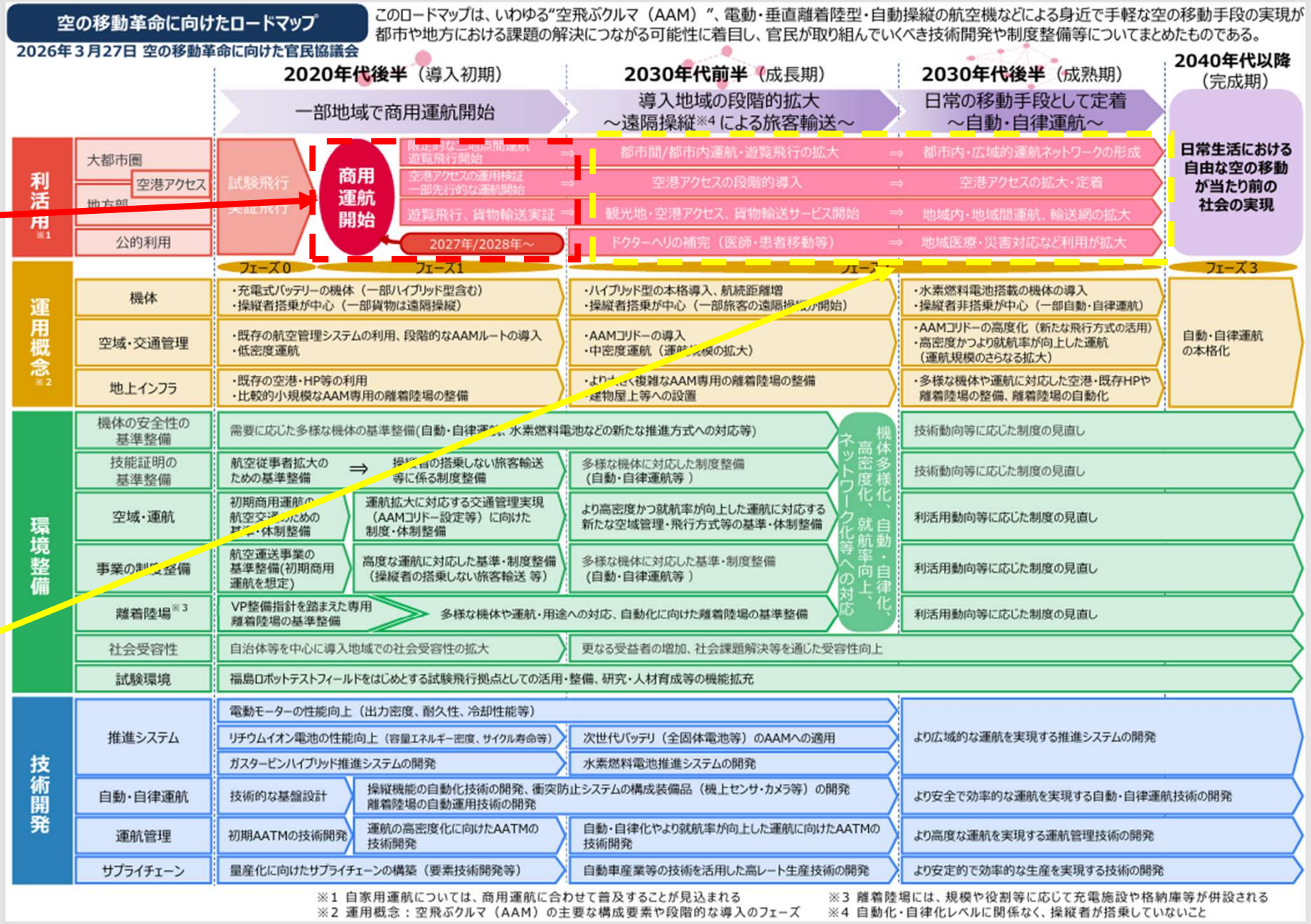
改定point①

国内での商用**運航開始時期が、2027/2028年**と明記される

改定point②

30年代以降には、市街地と空港との間の往来など、**段階的に導入エリアやユースケースの拡大**が示される

30年代後半には地域医療や災害対応なども含め、「日常の移動手段として定着」させる



【参考】国の動向②

国の動向② 日本成長戦略の策定（R8.7）

- 「**空飛ぶクルマ**」を**17の戦略分野**の一つとして特定し、今後官民投資を促進
- 欧米製機体と差別化が可能な路線（観光など短距離路線）を中心に、**2040年頃:約1,500億円**の国内外市場の獲得
- 国内外の部品・MRO市場で、主たる地位とシェアの獲得

国の動向③ 地域未来戦略の策定（R8.7）

- 「日本成長戦略」との連携のもと、強い地域経済の構築に向け、地方に大きな投資を呼び込み、**各地に産業クラスターを戦略的に形成**
- **戦略産業クラスター計画を策定**
  近畿はロケット、空クル、バイオ、GXが成長産業に選定
- **地域産業成長プランの策定を推進**
  地場産業の成長・発展に向け、知事主導で策定

国の動向④ 戦略産業クラスター計画（R8.7）

- 日本初の空飛ぶクルマの社会実装を実現し、**近畿が空飛ぶクルマ産業化の中核拠点**になることを目指す
- 機体開発・型式証明取得への支援のみならず、クラスターを構成する**企業の設備投資促進、インフラ整備、規制・制度改革、人材育成**を一体的に進める

戦略・計画の全体像

日本成長戦略【国の動向②】

地域未来戦略【国の動向③】

政策パッケージ
（重点投資対象分野）

近畿圏

戦略産業クラスター計画［国主導］

①ロケット・射場②**空飛ぶクルマ**
③バイオ・先端医療④GX
【国の動向④】

兵庫県

地域産業成長プラン[県主導]

【地域産業クラスター計画】

知事主導で力を入れる産業分野及び重点支援をすべき企業等を特定し、その形成・拡大を目指すもの

【地場産業成長プラン】

魅力あふれる地域資源を最大限に活用する地場企業等の付加価値向上や販路開拓を支援し、地域経済の拡大を目指すもの

【参考】国の動向③

空飛ぶクルマ　戦略産業クラスター計画（近畿地域）の概要

対象区域：大阪市、兵庫県

現状と課題

近畿地域のポテンシャル（強み）

- 大阪・関西万博で世界初の複数機体・複数事業者による**運航実証を実施（３機体・計81回）**。
- 航空機機体・エンジン・装備品等の関連企業に加え、これらのサプライチェーンに連なる中小企業群を含め、**100社以上の企業が集積**し、整備・運航・人材育成を一体展開可能。

●現状（その地域・産業を取り巻く将来の見通し）

万博レガシーを活かし、空飛ぶクルマの社会実装を先導

- 2040年空飛ぶクルマの**世界市場規模は約１.５兆ドル**と予測。開発で先行する欧米に対し、社会実装の加速が急務。
- VP（バーティポート）と一体となった開発が必須となる中、**６社ほどが約20地点でVP整備等を検討**しており国際的にみても先行的な取り組みが計画されている。



●課題

投資・リスク

- 初期段階は需要・事業モデルが未成熟。

人材

- 運航管理・整備・安全管理分野の専門人材が国内で限定的かつ、**整備士の高齢化も進行（50歳以上比率：約39%）**。

サプライチェーン

- 機体製造・運航・整備を支える部品・素材供給網が未形成であることが課題。

インフラ・分野特有の拠点

- 都心部VP（運航・簡易整備）と大規模整備拠点を組み合わせた一体的連携のための運航事業者・VP運営事業者等の関係主体間における機能連携が課題。

進行中の大規模投資案件と取組

●核となる大規模投資案件 【道筋】

【SkyDrive（愛知県豊田市）】

空飛ぶクルマの機体開発及び**型式証明取得に向けた飛行試験等**を実施。2028年のサービス開始を目指し、商用運航の前提となる機体供給基盤を確立。

※　投資総額は企業戦略に関する数値であるため非公開とする。

※　中小企業イノベーション創出推進事業（経産省）の補助事業として採択。



画像提供：SkyDrive

●課題解決に向けた取組 【政策手段】

投資資金・リスク

- 国・自治体は実証運航やVPに求められる要件の整理や整備基準の策定等によるVPの整備・普及の促進で実績と需要を創出し、段階的な投資拡大へ。
- 民間事業者は機体開発・運航・VP整備に段階的投資を行う。事業モデルを確立し持続的な投資環境を構築。

人材

- 民間事業者・専門機関等は、連携して教育・訓練体制を整備し、育成機能の拡充を図る。

サプライチェーン

- 民間事業者・地域の製造業は、既存の航空機・自動車・電池等の産業集積を活かし本分野へ参入。規模に応じ量産・供給体制を強化し裾野産業形成、産業基盤確立。

インフラ・分野特有の拠点

- VPに求められる要件の整理や整備基準の策定等により、VPの整備・普及を促進することで、初期投資リスクを低減し投資発現を加速。
- 自治体はVP設置にあたる事業環境整備を行い、さらに民間事業者とともに、都心部VP（大阪港VP等）と大規模整備拠点との連携を前提に、段階的なインフラ整備・運用を推進。実証運航を通じて蓄積されたデータを活用し、VP・整備拠点・運航ネットワークの拡張を図るとともに、機体配置等を一体的に調整し、インフラの効率的活用及び運航の安定性を確保。

目指す姿 【目標】

日本初の社会実装を実現し、近畿を空飛ぶクルマ産業化の中核拠点に。

官民設備投資額

- 【KGI】2040年までの累積額：**約348億円**
- 【KPI】2030年までの累積額：**約116億円**

2030年の10拠点形成に向けた先行投資を起点に、2040年に向けて民間事業者によるVP整備を段階的に拡大する。

付加価値増加額

- 【KGI】2040年までの累積額：**＋約1191億円**
- 【KPI】2030年までの累積額：**＋約397億円**

2030年の10拠点形成に伴う運航ネットワークの構築と運航規模の拡大により、関連事業の収益基盤を確立する。

人材育成数

- 【KGI】2040年までに累積**約1,100人を育成**
- 【KPI】2030年までに累積**約400人を育成**

2040年に向けて民間主導の育成体制を拡充し、産業成長を支える持続的な人材供給基盤を構築する。

バーティポート設置数

- 【KGI】2040年までに累積**約30地点整備**
- 【KPI】2030年までに累積**約10地点整備**

2030年までに大阪港VPなどの主要拠点を中心としたVP網を形成し、商用運航の基盤を確立。
2040年に向けて拠点間連携を強化し、面的なネットワーク形成を図る。

大阪港バーティポート





画像提供：大阪メトロ

02 目標実現に向けた取組

02 目標実現に向けた取組(事業化準備事業)

1 空飛ぶクルマ事業化準備事業 新規

予算額 60,366千円

県内における空飛ぶクルマの早期実装を目指し、
(1) 離着陸場整備等の事業化に係る取組、 (2) 新たな事業化を見据えた離着陸場候補地調査等の
「事業化準備等」支援へと段階を進め、県内での実装に直結する次の**9事業を採択**

●補助上限：(1)30,000千円、(2)5,000千円　●補助率：1/2

採択事業

事業者	事業内容
オリックス(株)	**離着陸場整備** エリア：①淡路夢舞台、②神戸埠頭TOTTEI
兼松(株)	**離着陸場整備** エリア：③洲本、④城崎、⑤神戸ウォーターフロント **離着陸場候補地調査等** エリア：⑥有馬
(株)Soracle	**商用運航の実現に資する事業（規程の整備など）** エリア：⑦神戸空港島
(一社)MASC	**商用運航の実現に資する事業（運用マニュアル整備など）** エリア：⑧淡路 **離着陸場候補地調査等** エリア：⑨姫路



空飛ぶクルマ準備化事業　採択事業①

1 （仮称）淡路島ポート整備事業

オリックス(株)

淡路市夢舞台サスティナブル・パークを、淡路島における拠点、関西・瀬戸内からの目的地・ 中継拠点と位置付け、同パーク内にポートを整備需要を創出し、人流拡大と地域価値の向上を図る

【R8取組】
- VPの整備に向けた制限表面及び電力供給ルート等の調査
- VPの基本構想・配置計画の策定
- VPの基本設計の作成

令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度～
ポートの整備に向けた調査・設計	初期実装に合わせたポートの整備	商業運航の受け入れ開始	社会実装を踏まえ、運航拠点型ポートへ拡張



2 （仮称）TOTTEI ポート整備事業

オリックス(株)

三宮エリアに近接し、観光・ビジネス・高付加価値移動等の需要が想定されるTOTTEI（新港第2突堤）において、空飛ぶクルマの離着陸場を整備し、移動・遊覧サービスの創出を図る

【R8取組】
- VPの整備に向けた制限表面の調査及び設計条件の整理
- VPの整備案の作成および関係者との合意形成
- VPの整備（関係者との合意形成を前提）

令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度～
ポートの整備に向けた調査・施工	デモフライトの実施	商業運航の受け入れに向けた制度・運用面の調整	商業運航の受け入れ開始 運航頻度に応じた追加整備の検討



3 御食国淡路島バーティハブ整備事業

兼松(株)

洲本市内候補地におけるVP建設に向けた準備や、空飛ぶクルマ受入れに向けた地域のステークホルダーとの合意形成の準備を推進

【R8取組】
- バーティハブの基本設計
- ステークホルダーとの合意形成に向けたフィールドワーク

令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度～
基本設計 行政協議	基本設計 行政協議 合意形成	実施設計 設置許可	工事 竣工（R11年度頃）



空飛ぶクルマ準備化事業　採択事業②

4 コウノトリとめぐる空飛ぶクルマ社会実装プロジェクトの実現に向けた準備事業

兼松(株)

城崎温泉近郊における離着陸場建設に向けた準備や、受入れに向けた地域のステークホルダーとの合意形成の準備を推進

【R8取組】
- VPの基本設計の実施
- 国立公園における開発許可申請に必要な調査の実施
- ステークホルダーとの合意形成に向けたフィールドワーク

令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度～
環境調査・基本設計・合意形成	環境調査・基本設計・行政協議	実施設計 設置許可申請	工事 竣工（R11年度頃）



5 空飛ぶクルマのある「みなとまち神戸」の実現に向けた準備事業

兼松(株)

神戸ウォーターフロントエリアの候補地におけるVP基本設計の前提条件及びその成立性の把握及び、
地域のステークホルダーの懸念、要望、期待の把握

【R8取組】
- 基本設計の準備（VPの成立性検討、条件整理）
- 成立性判断および合意形成に向けたフィールドワーク

令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度～
基本設計準備 事前協議	基本設計 行政協議	合意形成 実施設計	実施設計 工事・竣工（R11年度頃）



6 有馬温泉における空飛ぶクルマ検討プロジェクト

兼松(株)

有馬温泉エリアにおける空飛ぶクルマVPの候補地を選定し、当該候補地におけるVP設置可否を確認する

【R8取組】
- VP候補地適地選定、設置検討調査
- 需要調査

令和８年度	令和９年度～
離着陸場候補地の適地選定	候補地の事業化を検討



空飛ぶクルマ準備化事業　採択事業③

7 空港における商用運航を想定した各種規程・運用マニュアルの整備事業

(株)Soracle

商用運航の実現に向け、候補地点である神戸空港をベースに各種規程、運用上のマニュアルを整備するとともにリスクアセスメントを実施する

【R8取組】
- 航空運送事業開始に向けた規程の整備
- 空港特有の個別運用マニュアル作成

令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度～
商用運航に向けた各種規程・運用マニュアル整備	兵庫県内における商用運航に向けた準備	兵庫県内における商用運航開始（予定）	神戸空港のほか兵庫県内における就航地点の拡大



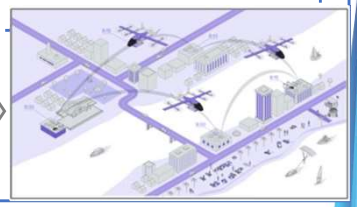
8 関西・瀬戸内エリアにおける空飛ぶクルマ社会実装事業

(一社)MASC

2030年代に関西・瀬戸内エリアが“空のコリドー”で結ばれる社会を目指し、令年度は、申請書の作成、運用マニュアルの検討、技術的検証を実施

【R8取組】
- 国土交通省への申請書の作成
- 運用マニュアル等整備
- 安全運航に関する検証

令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度～
運用マニュアル等の整備 安全運航に関する検証	ヘリによる先行事業の実施安全運航体制の構築	国交省・航空運送事業の申請安全運航体制の構築	令和11年度 淡路島での商用運航開始



9 関西・瀬戸内エリアにおける空飛ぶクルマ社会実装事業

(一社)MASC

播磨エリア・姫路 市域を対象に、空飛ぶクルマ事業の創出とネットワークの構築を図り、令和8年度は離着陸場の候補地となる場所を抽出

【R8取組】
- VP候補地の抽出
- VP候補地の評価/課題整理
- 地域の受容性向上のためのイベントの実施

令和８年度	令和９年度以降
離着陸場候補地の適地選定	候補地の事業化を検討



02 目標実現に向けた取組(モビ会議)

② 次世代空モビリティひょうご会議の開催 継続

早期の社会実装実現に向け、有識者や事業者等からなる「次世代空モビリティひょうご会議」を引き続き実施するとともに、２つの地域分科会と連携を図りながら、全県での取組を総合的に推進

【主な検討項目】

- 県空飛ぶクルマ事業取組方針の検討
- 地域分科会の取組報告、実施方針検討
- 空飛ぶクルマに関する最新動向の情報共有
- 空飛ぶクルマ事業化準備事業の取組報告　等

推進体制

年１回開催

次世代空モビリティひょうご会議

連携　連携

瀬戸内分科会（大阪湾+瀬戸内エリア）

但馬分科会（但馬+丹後エリア）

県取組方針の検討

地域ニーズの把握等

主な構成員

●モビ会議
有識者、事業者、国、大阪府、関係市町、地域分科会構成団体　等

●地域分科会
有識者、事業検討事業者、地域協議会、地域団体、国、地元自治体　等

目標(段階的な取組)

※国戦略産業クラスター計画を踏まえた段階的な取組

短期（～2028） 飛ばす	中期（～2030） 広げる	長期（2030～） 根付く
• VPの先行整備に向けた支援 • 離着陸機能を備えた拠点機能の拡充 • 充電・給電設備、簡易的な機体点検機能の整備 • 安全管理体制や運航ルールの構築	• 恒常的な運航体制の確立に向けた支援 • VPの拠点拡張に向けた支援 • 簡易整備機能や運航支援機能の拡充 • 関連企業や人材の集積促進	• 空飛ぶクルマ産業の本格定着 • 近畿広域へのネットワークの拡大 • 高度な運航形態に向けた運用・整備体制の整備 • 運航・整備・インフラ・サービスが一体のエコシステムの構築

02 目標実現に向けた取組(地域分科会)

3 地域分科会の設置 新規

基本的な考え方

▶社会実装に向けた取組を具体的に進めるためには、総論的な議論にとどまらず、民間の参入意欲が旺盛で、ポテンシャルの高い地域において、重点的・戦略的な検討を進めることが有効

▶あわせて、地域における合意形成を図り、社会受容性を高めながらの事業推進が不可欠であるため、住民や地域団体、企業等と連携しながら、地元ニーズや課題を丁寧に汲み取れる推進体制が必要

▶早期の社会実装に向け、事業者と論点に即した機動的な議論を行うとともに、地元のステークホルダー等と意見・情報交換を行う場として、「空モビ会議」に**「地域分科会」を設置**

▶分科会を設置する地域は、①国のポテンシャル調査において事業ニーズが高く、②社会実装に向けた検討が事業者や地域により具体的に進められている**「瀬戸内」及び「但馬」の２地域**に設置

1 設置目的

1. 地域特性と地元ニーズを踏まえた**重点的・戦略的な事業形成**
2. 民間投資を起点とした、社会実装に向けた取組の推進
3. 官民・地元関係者による**実務的な対話の深化**
4. 迅速で機動的な議論が可能な体制構築による**早期の事業展開**
5. 地元ステークホルダー等との意見交換や情報交換の**総合ポータル**

2 構成員

1. 行政：兵庫県、県内市町、国、関係府県・市町
2. 地元：地域団体、地域協議会　等
3. 民間：開発事業者、運営事業者、関連企業　等
4. 有識者：大学教授　等



地域特性や地元ニーズを踏まえた事業形成
社会受容性の向上、地域一体となった事業推進

02 目標実現に向けた取組（瀬戸内分科会）

設置の考え方

❶国の調査によれば、瀬戸内エリアは、**高付加価値の観光コンテンツを持つ**ほか、「万博レガシー」を核とした活用が期待されており、導入段階（2020年度代後半）での実装に向けて、民間投資の促進支援が重要

❷県内におけるＶＰ整備においては、**神戸・淡路・姫路エリアで、既に複数の事業者が着手・検討中**

❸大阪府では、夢洲や森ノ宮を起点としたベイエリアでの商用運航に向けた取組が進められており、本県を結ぶフライトルートも検討されている。また、当該地域における機運も相当程度高まっている

瀬戸内で分科会を設置し、次のテーマ等を検討

❶広域連携・広域での機運醸成
大阪府･市町、国との広域連携･広域調整、機運醸成

❷地域課題・ニーズの洗い出し
事業化に向けた課題やニーズの洗い出し・情報共有

❸社会受容性の向上に向けた支援
事業者等による社会受容性の向上や地元理解促進に向けた取組や情報発信等への支援

❹マルチユースに向けた検討
商用運航（観光分野）以外の、医療・災害分野等でのビジネス化に向けた情報交換・意見交換

瀬戸内エリア　～空と海が織りなす新観光～

大阪を拠点とした、観光などの商用運航における新たな移動を実現





出典：近畿経済産業局「関西における次世代空モビリティビジネスに関するポテンシャル調査事業」

02 目標実現に向けた取組(但馬分科会)

設置の考え方

❶国の調査事業によれば、豊岡エリア（城崎・但馬空港）は、**高付加価値の観光コンテンツ**を持つことから、導入段階（2020年度代後半）で効果があるエリアとされており、実装に向けた民間投資の促進支援が重要

❷豊岡市では、**地域を挙げた取組が先導的に進められており、地元ニーズも高く機運も醸成**されている。県と地域が強みを活かした効果的な推進体制の構築が重要

❸民間事業者が、既に実装に向けた取組を進めており、具体的な議論を行うことができる地域である

但馬で分科会を設置し、次のテーマ等を検討

❶広域連携・広域での機運醸成
- 近隣府県や市町、国との広域連携・機運醸成支援

❷社会受容性向上に向けた支援
- 課題に対する技術的な助言や各種調整に係る支援
- 地元理解促進や機運醸成に向けた取組推進

❸VP整備や就航先の新規発掘支援
- 整備・観光事業化に向けた関係者との意見交換
- 整備可能性がある地域と事業者等との情報共有

❹マルチユースに向けた検討
- 商用運航（観光分野）以外の、医療・災害分野等でのビジネス化に向けた情報交換・意見交換

但馬エリア　～多自然地域　移動の新展開～

但馬空港を拠点として、多自然地域間を結ぶ新たな移動を実現





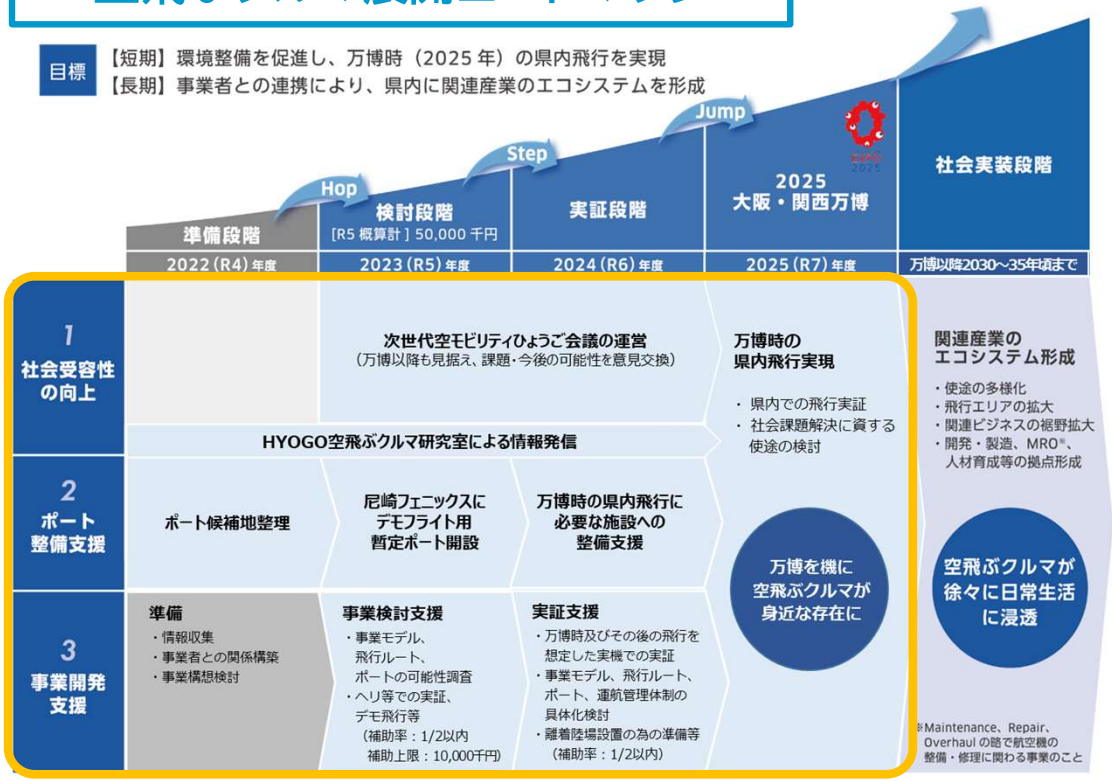
出典：近畿経済産業局「関西における次世代空モビリティビジネスに関するポテンシャル調査事業」

０３ これまでの取組

03 これまでの取組

・本県では、大阪・関西万博を一つの契機として、「**社会実装に向けた兵庫県の取組・ロードマップ**」を策定
・本ロードマップに基づき、令和５年度から県内での**社会受容性の向上、ポート整備支援、事業開発支援等**に取り組んできた

空飛ぶクルマ展開ロードマップ



社会受容性の向上

①次世代空モビリティひょうご会議

空飛ぶクルマの現状や想定される利用シーンの検討など、将来的な社会実装に向けて取り組むべき方向性等を議論



②機運醸成イベント

空飛ぶクルマの興味・関心を高めていただくための各種イベントを開催



③HYOGO空飛ぶクルマ研究室

次代を担う若者と共に空飛ぶクルマが飛ぶ未来を構想し、研究室で生まれる提案を広く発信することで社会受容性向上を目指す



④事業者マッチング

イベントやセミナーの機会を活用し、県内事業者と空飛ぶクルマ関連事業者のマッチングを実施



事業開発支援

空飛ぶクルマ実装促進事業

県内でのビジネス展開を目指す事業者の実証や調査等の取組を支援



ポート整備支援

尼崎フェニックスバーティポート

尼崎フェニックス事業用地に離着陸場を整備し、事業者の取組等を支援



03 これまでの取組（社会受容性の向上）

①次世代空モビリティひょうご会議（R５～）

概要

新たなサービスの展開や地域課題の解決につながることが期待される「空飛ぶクルマ」について、将来的な社会実装を目指し、県内の社会受容性向上や機運醸成を図るとともに、実装に向けた課題や今後の可能性などを関係者と意見交換を行うため、有識者や事業者等が参加する会議を開催

取組実績

○令和５年度から令和７年度まで**計６回実施**

・空飛ぶクルマに関する最新動向や県内での取組を情報発信

・活用が想定される利用シーンの検討や県として取り組むべき方向性等を議論

		開催日	内　容
R5	第１回	8.31	①「空飛ぶクルマの現状」講演、②兵庫県の取組状況 ③利用シーン、社会受容性の向上、関連ビジネスへの波及等の検討
	第２回	3.12	①実装促進事業採択事業成果報告、②県事業報告・当初予算説明
R6	第１回	10.15	①観光分野のおける活用策の提案、②トピックスの紹介（空飛ぶｸﾙﾏの最新動向、ﾁｬｰﾀｰﾍﾘ活用した高付加価値旅行者向けﾂｱｰ商品の造成）
	第２回	3.19	①実装促進事業採択事業成果報告、②県事業報告・今後の会議方針
R7	第１回	11.13	県における空飛ぶクルマ事業の今後の方向性検討
	第２回	3.12	①実装促進事業成果発表②R8当初予算説明・来年度の会議実施方針（地域分科会実施に向けた検討）③国の動向及び県地域分科会に期待すること（近経局）





成果・課題

○県内での実装を目指す事業者や国・県・関係団体からの取組報告等を通じて、県内自治体をはじめ、県民の方々に空飛ぶクルマに関する情報を広く周知し、**空飛ぶクルマに関する認知度向上に寄与**

○計６回実施した会議で、構成員から主に以下の意見が出され、今後の施策展開に向けて検討が必要

・住民等からの理解を得るため、**公益性の高い活用（救急医療・災害対応等）と組み合わせた活用策を検討**することが重要
（観光活用のように富裕層だけではなく、**県民にとって「自分ごと化」**できることが重要）

・**地域と連携**して地域や住民にとってメリットがある**活用策を長期的な目線で検討**することが必要

03 これまでの取組（社会受容性の向上）

②機運醸成イベントの実施（R7）

概要

県民の方々に空飛ぶクルマを身近に感じてもらい、県内での社会実装に向けた機運を醸成するため、**デモフライトイベントやワークショップなどを各地で開催**

取組実績

（1）空飛ぶクルマ紙飛行機ワークショップ

「空飛ぶクルマ」をテーマに未来の移動手段やこれからの社会について、紙飛行機を通じて**親子で楽しく体験できるワークショップ**を実施



森の文化祭@尼崎の森中央緑地



尼崎キューズモール



ひょうごﾌｨｰﾙﾄﾞﾊﾟﾋﾞﾘｵﾝｳｨｰｸ@万博



ららぽーと甲子園

実施数 4会場　**参加数** 約1,300名

（2）「空飛ぶクルマ学習会」

主に**小学生を対象**に、空飛ぶクルマの魅力を知ってもらう「**空飛ぶクルマ学習会**」を実施



県庁見学に来庁した小学生を対象に計６回実施

森の文化祭にて親子向けに計７回実施



実施日 5/2~6/9のうち7日間　**参加数** 約530名

03 これまでの取組（社会受容性の向上）

取組実績

（3）空飛ぶクルマデモフライトイベント



関西・瀬戸内地域で空飛ぶクルマのビジネス化を目指す(一社)MASCと連携し、ひょうご楽市楽座会場において**デモフライト**を実施するとともに、**コックピットの試乗体験会**や**VRでの操縦体験**等、**空飛ぶクルマを身近に体験できる**イベントを開催

開催日 R7.8.2～8.3(2日間)　**参加者数** 約5,000名



デモフライト



VR操縦体験



コックピット試乗会

成果・課題

- 県内各地で開催したイベントには、**約6,800人**が参加。県民をはじめとした多くの方々に空飛ぶクルマについて、身近に感じていただき、**空飛ぶクルマの認知度向上に寄与**
- 社会実装に向けて引き続き、**空飛ぶクルマへの理解促進（社会受容性向上）のため継続した取組**が必要

03 これまでの取組（社会受容性の向上）

③HYOGO空飛ぶクルマ研究室

概要

○兵庫県・兼松（株）・中央復建コンサルタンツ（株）・（株）パソナグループ・（株）BUZZPORTの５者は空飛ぶクルマの振興を通じ、地域創生や観光開発を担う人材の育成及び地域活性化を目的とした連携及び協力に関する協定書を締結し、「HYOGO空飛ぶクルマ」研究室を創設

○次代を担う若者と共に空飛ぶクルマが飛ぶ未来を構想し、研究室で生まれる提案を広く発信することで、空飛ぶクルマの社会受容性の向上や、兵庫から空飛ぶクルマ産業を担う人材の輩出を目指す

取組実績

・令和４年４月：**「空飛ぶクルマの振興を通じた地域創生の取組における連携協定」を締結**
〔連携事項〕
①空飛ぶクルマによる地域創生、②空飛ぶクルマを活用した観光開発、③①②に関する高校生・大学生の研究活動へのメンタリング、協同活動の実施、④空飛ぶクルマの社会実装に向けた受容性向上のための活動、⑤その他、空飛ぶクルマによる県民サービスの向上、地域の活性化



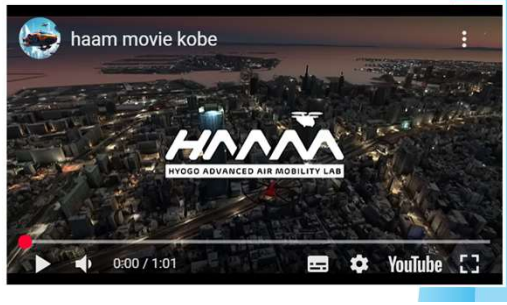
・令和４～６年度：全国の高校生が観光事業計画を競う探求型学習プログラム
「観光甲子園」内に「空飛ぶクルマ部門」を開設

参加者チーム数 2022年度：９４・2023年度：１０４・2024年度：１２６

・令和６年度：大学生向け空飛ぶクルマ産業の未来人材育成コミュニティ「PLANKTONS」

成果

・「観光甲子園」などの取組を通じて、多くの生徒に参加いただき、若い世代を中心に**空飛ぶクルマの認知度向上に寄与**
・３年間の公式記録動画を作成し、HPで公開



03 これまでの取組（事業化支援）

④空飛ぶクルマ関連事業者と県内事業者等とのマッチング（R8産業メッセ）

概要

大阪・関西万博を経て、空飛ぶクルマの導入初期・成長期を見据えて、**近畿経済産業局管内の産業界が参画できるきっかけづくりを行うことを目的**として**「国際フロンティア産業メッセ2026」**で、**空飛ぶクルマ関連事業者**と**県内事業者等のマッチング**を新たに実施

実績

開催日時 R8.9.4(金)14:30～17:00　**参加数** 126名

内容：「空飛ぶクルマの運航に向けた経済界・事業者の取組紹介」、「事業者との個別商談会」
主催：関西航空機産業プラットフォームNEXT（近畿経済産業局、関西経済連合会、NIRO）
後援：兵庫県、神戸市







成果

空飛ぶクルマ関連事業者と県内事業者等による、**２２件**の個別商談のマッチングを実施
今後もイベントやセミナーの機会を活用しながら、事業者間のマッチングに取り組んでいく

03 これまでの取組（ポート整備支援）

⑤尼崎フェニックスバーティポート

概要

空飛ぶクルマの社会実装に向けた環境整備を加速させ、県内での飛行を実現させるため、**尼崎フェニックス事業用地に離着陸場を整備**（※なお、万博後は、尼崎フェニックス事業用地の分譲に向けて同VPを撤去）

取組実績

・令和５年１１月：**尼崎フェニックスバーティポート整備**
・令和５年１１月～：運航を目指す事業者による**実証飛行等で活用**
・令和７年８月：**「空飛ぶクルマデモフライトイベント」の実施**







成果

・空飛ぶクルマの運航を目指す事業者による実証飛行等で活用され、**事業者の取組を環境面からサポート**
・尼崎フェニックス事業用地で実施している「ひょうご楽市楽座」の一環として実施した**「空飛ぶクルマデモフライトイベント」**においても活用し、**空飛ぶクルマの認知度向上にも貢献**

03 これまでの取組（事業開発支援）

⑥空飛ぶクルマ実装促進事業（R５～R７）

概要

・県内において空飛ぶクルマを活用したビジネス展開をめざしている事業者の取組を支援
【対象事業】①実機実証・ビジネス化準備、②ビジネスモデルの検証、③離着陸場整備準備
※R5～R6は大阪府、大阪市、神戸市と連携して実施

取組実績

採択実績

・令和５年度から令和７年度までの間に、**７事業者延べ16事業（R5：6件、R6：6件、R7：4件）**の支援を実施

採択事業内容（R7）

(一社)MASC



関西・瀬戸内エリアにおける空飛ぶクルマ社会実装事業



自治体等を対象とする観光・救急・防災等への活用セミナーによる社会受容性向上の取組

兼松(株)



ビジネスモデルの検証に資する事業（神戸・有馬）



離着陸場設置の準備事業（淡路島）

成果・課題

・事業創設以来、様々な分野でビジネス化を目指す事業者を支援し、県内の**社会実装に向けた取組が着実に前進**
▶但馬（城崎）地域等で実装に向けた事業者の取組が始まって来ている状況
・事業者によるビジネス化に向けた取組が進みつつあることから、県内での実装を実現するため、今後は**実証・調査から実装に直結する取組に重点を置いた支援が必要**